第３回 HIV感染症患者の療養支援に関する
心理職とMSWの協働シンポジウム

エイズ治療拠点病院における先駆的連携活動の実際

HIV 感染症患者の長期療養を支えるため、全国のエイズ治療拠点病院では地域連携を推進しています。エイズ予防指針においてもチーム医療の重要性が強調されており、HIV 診療チームの心理職と医療ソーシャルワーカーには、それぞれの専門性を活かした連携・協働を通じて、包括的な心理社会的支援体制を構築することが求められています。こうした背景を踏まえ、エイズ治療拠点病院における心理職とMSW の連携・協働をテーマとしたシンポジウムを企画しました。

第３回は、外国人HIV 陽性者への支援事例を通して、言語や文化の違いに伴う支援上の課題を共有するとともに、心理職と MSWがそれぞれの専門性を活かし、多職種と協働しながら患者を支えるために必要な連携とコーディネーションのあり方について検討します。

ぜひご参加ください。

日 時

令和８年

12月17日(木) 18:00～19:10

方 法

ZOOMによるオンライン
事前申し込み(先着150名)

https://forms.gle/P3QWe3vRRinfuLDi8

あるいは QRコードから

締切：12月8日(火)正午

＊個人情報は運営管理の目的以外に使用しません。

プログラム

進　　行	三嶋　一輝	医療ソーシャルワーカー（福井大学医学部附属病院）
	髙村　佳幸	臨床心理士（順天堂医院）
開会挨拶	潟永　博之	「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」班　研究代表者（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター センター長）
シンポジウム		
講　　演	外国人HIV 陽性者支援における留意点	
	宮島　謙介	エイズ専門相談員（東京都保健医療局感染症対策部防疫課）
事例提供者	重信　英子	医療ソーシャルワーカー（広島大学病院）
	喜花　伸子	臨床心理士（広島大学病院）
総合討論		
閉会挨拶	木村　聡太	心理療法士（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター）

主催

厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業
HIV感染症の医療体制整備に関する研究
研究分担者：三嶋一輝「Nsとの協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」

後援

公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会
一般社団法人 日本臨床心理士会
公益社団法人 日本公認心理師協会

協力

非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究
研究分担者：木村聡太「サブテーマ３ 神経認知障害・心理 非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者のメンタルヘルスと心理支援に関する研究」

問い合わせ先

福井大学医学部附属病院　地域医療連携部　三嶋　一輝
TEL 0776-61-8645 (平日 9:00 ー 17:00) ※当日 TEL 080-2966-7362